

平成 28 年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (Ⅱ)

家 庭

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 28 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊕ ⊗ ⊘ ⊙

問 1 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 1 節 家庭科の目標 1 教科の目標」について述べたものである。内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 製作、調理などの実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、実感を伴って理解する学習を展開する。

イ 社会生活への関心を高め、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度をはぐくむ。

ウ 日常の生活に必要とされる専門的な知識及び技能を、児童一人一人のよさや個性を生かしながら身に付けるようにする。

エ 児童は自分が家族を支えている存在であり、自分の存在があつて家族が構成されているという相互関係に気付くことで、家族の一員としての自覚をもつことができる。

問 2 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 2 節 家庭科の内容構成」について述べたものである。内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する視点から、小学校から高等学校までの内容の体系化を図り、同じ枠組みをもつ 4 つの内容で構成されている。

イ 家庭生活は、地域や家族構成によって違いが大きいので、学校独自の指導計画を作成するなどの弾力的な扱いができるようにしている。

ウ 「A 家庭生活と家族」～「D 身近な消費生活と環境」の 4 つの内容は、学年ごとに示されている。

エ 2 学年間の学習全体を貫く視点として、「家族の成長」が設定されている。

問 3 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い 4 家庭との連携」について述べたものである。内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 家庭科で学習する知識と技術などは、繰り返して学習したり日常生活で活用したりして定着を図ることができる。

イ 家庭生活は個々の家庭によって異なることから、児童を取り巻く環境に十分配慮して家庭での実践の結果を発表しないようにする。

ウ 家庭や地域社会との連携を積極的に図り、効果的に学習が進められるよう配慮する必要がある。

エ 家庭科の学習のねらいや内容について、授業参観や学年だより、学級だより等を通して情報を提供するなど、家族が家庭科の学習の意義や内容を理解できるようにする。

問 4 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 3 章 指導計画の作成と内容の取扱い 5 言語活動の充実と家庭科」について述べたものである。内容として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 「団らん」、「健康」、「手入れ」、「快適さ」、「ゆでる」などの生活に関連の深い様々な言葉が、児童自身の中で実感を伴った明確な概念として形作られるようにする。

イ 実践的・体験的な活動を行うことによって、様々な驚きや感動とともに、1つ1つの言葉が児童自身の生活の中で生きた言葉へと変化すると考えられる。

ウ 生活における課題を解決するために、言葉だけでなく、設計図や献立表を用いた学習活動を充実する。

エ 製作や調理などにおける体験を通して生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解するようにする。

問 5 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 A 家庭生活と家族」について述べたものである。「(3) 家族や近隣の人々とのかかわり」の「ア 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること。」の記述として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 家族との触れ合いとは、あいさつや会話等を通してコミュニケーションを図ること、食事や家庭の仕事などを共にすること等、家族と親しくかかわることである。

イ 団らんは、家族などと和やかな時を過ごすことである。

ウ 「楽しくする工夫をすること」ということは、会話や触れ合う場と時間を生み出す方法、楽しくする方法を見いだすことができるようにすることである。

エ ふだん意識して行っている触れ合いや団らんの時間をより楽しく工夫することで、家族の心のつながりが深まることにも気付くようにする。

問 6 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成 20 年 8 月)の「第 2 章 家庭科の目標及び内容 第 3 節 家庭科の内容 B 日常の食事と調理の基礎」について述べたものである。「(2) 栄養を考えた食事」について指導する内容として正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 五大栄養素の基礎的事項に加え、食品群別摂取量の目安についても扱う。

イ 理科の第 5 学年における植物の種子の中の養分に関する学習で扱うぶどう糖との関連を図り、ぶどう糖は炭水化物の 1 つであることに触れる。

ウ 米飯とみそ汁を中心とした 1 食分を扱い、パンを中心とした 1 食分の食事は扱わないようにする。

エ 食品に含まれる主な栄養素の体内での主な働きにより、「主にエネルギーのもとになる」、「主に体をつくるもとになる」、「主に体の調子を整えるもとになる」の 3 つのグループに分けられることを知り、日常の食事に使われる食品をグループに分類することができるようにする。

問 7 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成20年8月)の「第2章 家庭科の目標及び内容 第3節 家庭科の内容 B 日常の食事と調理の基礎」について述べたものである。「(3) 調理の基礎」の指導事項の記述として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 調理に関心を持ち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること。
- イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること。
- ウ ゆでたり、いためたり、蒸したりして調理ができること。
- エ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。

問 8 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成20年8月)の「第2章 家庭科の目標及び内容 第3節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい (1) 衣服の着用と手入れ」について述べたものである。衣服の働きについて、日常生活と関連させて理解できるように配慮することの具体例として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 動作による体の動きを観察する。
- イ 流行について話し合う。
- ウ 衣服を重ねて着てみる。
- エ 布を用いた実験を行ってみる。

問 9 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成20年8月)の「第2章 家庭科の目標及び内容 第3節 家庭科の内容 C 快適な衣服と住まい (2) 快適な住まい方」について述べたものである。内容の取扱いとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 暑さへの対処の仕方については、窓の内側で太陽の熱をさえぎると暑さを防ぐ効果が大きいことを考え、夏の効果的な住まい方を工夫する。
- イ 昔と今の住まいを比べるなどして、季節の変化に合わせた住居の機能が分かるようにする。
- ウ 家庭によって整理・整頓や清掃の仕方が異なり多様であるため、指導に当たってはグループでの学習活動は行わず、児童一人一人に課題を選択させる。
- エ 地域によって、夏季に暑さを防いで涼しく生活すること又は冬季に寒さを防いで暖かく生活することのいずれかに重点を置いて題材を構成する。

問10 次の文は『小学校学習指導要領解説 家庭編』(平成20年8月)の「第2章 家庭科の目標及び内容 第3節 家庭科の内容 D 身近な消費生活と環境」について述べたものである。〔(1) 物や金銭の使い方と買物〕の指導内容及び指導上の配慮事項として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 身の回りの整理・整頓^{とん}の学習で出た不用な物を持ち寄り、物の使い方や購入の仕方について振り返るなど、「快適な住まい方」と関連を図った学習を行う。

イ 遠足や宿泊学習などの際に金銭を使う機会があれば、関連を図って学習を展開する。

ウ 児童を取り巻く環境に関わらず、物の選び方や買い方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるようにする。

エ 調理実習や生活に役立つ物の製作の学習において使う用具や材料を計画を立てて購入するなど、「調理の基礎」又は「生活に役立つ物の製作」などと関連を図った学習を展開する。

問11 次の文は1946年に制定された日本国憲法の「第3章 国民の権利及び義務 第24条」の条文である。(1)～(5)に入る語句の組合せとして正しいものを、下表のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第24条 婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が(1)の権利を有することを基本として、相互の(2)により、維持されなければならない。

2 配偶者の選択、財産権、(3)、住居の選定、離婚並びに婚姻及び(4)に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的(5)に立脚して、制定されなければならない。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	対等	信頼	相続	親族	合意
イ	同等	信頼	貯蓄	家族	合意
ウ	同等	協力	相続	家族	平等
エ	対等	協力	貯蓄	親族	平等

問12 次の文は日本の人口統計に関する最近の動向を記述したものである。誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 合計特殊出生率が2.00に回復すれば、日本の人口は維持できると考えられている。
- イ 現在の日本は、高齢化率が21%を超えた超高齢社会である。
- ウ 2013年に行われた国民生活基礎調査の結果によると、全世帯に占める核家族の割合は、約60%である。
- エ 2014年の日本人の平均寿命は、男性は80歳を、女性は85歳を超えている。

問13 次の文は米と炊飯に関する記述である。誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 稲の種実であるもみからもみ殻を除いた物を玄米といい、精白米よりもビタミンB₁を多く含む。
- イ 炊飯とは米に水を加え、吸水、膨潤させ、加熱によって米の生でんぷんを糊化させて、飯にすることである。
- ウ 米の吸水速度は水温によって異なり、水温が高いほど遅い。
- エ 精白米の第一制限アミノ酸は、リシン(リジン)である。

問14 次の文は栄養素に関する記述である。正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア たんぱく質は主として体をつくるのに役立ち、エネルギー源としては利用されない。
- イ ビタミンEは水溶性ビタミンであり、抗酸化作用を有する。
- ウ 鉄は無機質に分類され、血液中のヘモグロビンの構成成分である。
- エ 食品に含まれる脂質の大部分は中性脂肪であり、これを構成するグリセリンの種類によって栄養的特徴が異なる。

問15 次の文は食品に関する記述である。正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 卵は良質なたんぱく質源であり、たんぱく質の栄養価を表すアミノ酸価は50である。

イ かつおぶしの主なうま味成分はグルタミン酸であり、こんぶの主なうま味成分はイノシン酸である。

ウ みそは原料として用いた大豆の種類によって、米みそ、麦みそ、豆みそに分類される。

エ えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生の7品目のいずれかを含む加工食品については、食物アレルギーの発症数や重篤度から勘案して、これらを原材料として含む旨の表示が義務付けられている。

問16 次の文は調理に関する記述である。誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ジャガイモの品種「男爵」は「メークイン」と比べて煮崩れしにくいので、肉じゃが、シチュー、カレーなどの煮込み料理に適している。

イ ほうれんそうやしゅんぎくなどの葉ものは水からゆでると、ゆで時間が長くなって栄養素が流出したり、色が悪くなるので、沸騰した湯で短時間でゆでる。

ウ みそ汁を作るとき、みそを溶いて入れた後は、みその風味を大切にするために長く加熱しないようにする。

エ 食品をいためるとき、フライパンを温めて油をなじませておいてから食材を入れると焦げ付きにくくなる。

問17 次の文は布の種類や性質に関する記述である。正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 織物では、たて糸方向には布が伸びにくいですが、よこ糸方向には布が伸びやすい。

イ 学校生活で使われている布の中で、カーテンと体育着は織物が多い。

ウ 綿繊維を材料とした布は水をよく吸う性質があり、ポリエステル繊維を材料とした布はしわになりやすい。

エ プロードは、綾織の織物であり、織目が密で丈夫である。

問18 次の文は繊維製品についている表示の種類と内容に関する記述である。正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 取り扱い絵表示は、家庭で衣服の手入れが適切な方法で行えるように、洗い方(水洗い)、塩素漂白の可否、ドライクリーニング、絞り方、干し方について、日本工業規格(JIS L 0217)で定められた記号(マーク)を用いて表示する。

イ 組成表示は、「家庭用品品質表示法」で定められており、使用されている繊維名を表す。混用の場合は体積の割合を多い順に表示する。

ウ 既製服のサイズ表示は、日本では日本工業規格(JIS)で定められており、年齢区分により、乳幼児用、少年用、少女用、成人男子用、成人女子用、高齢者用に分けられる。

エ 原産国表示は、「不当景品類及び不当表示防止法」によって、原産国の表示が義務付けられている。通常は布の産地ではなく、最終縫製国が表示される。

問19 次の文は快適な室内環境の整え方に関する記述である。正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 手あかは酸性の汚れ、水あかはアルカリ性の汚れで、石けんかすはクエン酸水を使うとよく落ちる。

イ カビは胞子を散らさないために、掃除機をかけず、乾いたぞうきんを使って拭き取る。

ウ 窓面に対する夏季の日射量は南面が東面より多いので、ブラインドやカーテンなどで日射を遮る工夫をする。

エ 開放型の石油ストーブは水蒸気を発生させないので、結露対策に有効な暖房器具である。

問20 次の文は消費者教育の推進に関する法律(平成24年8月22日法律第61号)第一章 総則に示されている内容である。(1)~(5)の文章の正誤(○×)の組合せとして正しいものを、下表のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 消費者教育は、消費者の消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に与える影響に関する情報その他の多角的な視点に立った情報を提供することを旨として行われなければならない。
- (2) この法律において「消費者教育」とは、消費者の保護を支援するために行われる消費生活に関する教育及びこれに準ずる啓発活動をいう。
- (3) 消費者教育は、消費生活に関する知識を修得し、これを適切な行動に結び付けることができる実践的な能力が育まれることを旨として行われなければならない。
- (4) 消費者教育は、幼児期から高齢期までの各段階に応じて体系的に行われるとともに、年齢、性別、障害の有無その他の消費者の特性に配慮した適切な方法で行われなければならない。
- (5) 消費者教育は、災害その他非常の事態においても消費者が合理的に行動することができるよう、非常の事態における消費生活に関する知識と理解を深めることを旨として行われなければならない。

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	○	×	○	○	×
イ	○	×	○	×	○
ウ	×	○	○	○	×
エ	○	○	×	×	○